

【RKB ラジオ放送(FM)のインタビューへの回答】

接受 RKB FM 專訪答復内容

2017 年 5 月 11 日

- 1、Gogoro 製造生産の電動 SCOOTER「Smartscooter」（二輪のテスラ）が、蔡英文政府が推進している「5 プラス 2 産業」政策での産業構造改革が目指す方向と一致する新たな産業のモデルとしても存在感を高めている。

①アジアのシリコンバレー

②スマートシティ（グリーンエネルギー）

③バイオ

④再生可能エネルギー

⑤国防産業

新しい農業

+

循環経済

- 2、Gogoro の「スマートスクーターSmartscooter」は、100%国産で台湾の対外イメージを UP し、技術力を高め世界をリードする産業をつくり出す。

- 3、人口 1 人当たりのスクーターの保有台数が世界一といわれる台湾で、朝の通勤ラッシュの時間帯、台湾の路上はスクーターであふれ返る。総人口 2300 万人に対し、スクーターの登録台数は約 1360 万台、乗り手も老若男女ろうにやくなんによを問わない。雨の日以外はスクーターで出勤する。「手軽だし何より渋滞に巻き込まれずに済む」

- 4、従来型の電気スクーターはフル充電に一晩程度かかる煩雑さが普及へのネックになっていた。「Smartscooter」なら充電時間を「最短 6 秒に短縮」、バッテリー交換で独特のセルフ方式（無人の充電ステーション）。

- 5、スマホの専用アプリを使えば、電池の残量や近くの充電ステーションへの誘導のほか、車体に取り付けられたセンサーで故障などがなくか随時チェックできる。エンジンの起動やシートのロック解除までスマホで操作できる。

- 6、Gogoro は台湾では、電気自動車の米テスラモーターズになぞらえ、「二輪のテスラ」と称されるようになった。

- 7、海外展開：現在、アメリカ・ドイツのベルリン・オランダのアムステルダムで展開中。今後、スペイン・フランス・イタリア・中東・東南アジアなど 8 ヶ国 11 都市へ展開し、ベトナムでは 1 年で 180 万台の販売が見込まれている。

- 8、中国石油と提携、ガソリンスタンド、スーパーマーケット、郵便局と協力するなど、

充電ステーションを多く開設。現在の 320 ヲ所から今年中に 400 ヲ所を目指そうとしている。

9、現在 Gogoro は、台北・新北・基隆・桃園・新竹・台中・台南・高雄の 8 市に、直営店 18 店、サービスセンター9 ヲ所を開設。今年は屏東縣に進出する計画もあるという。

10、台湾では大量に走るスクーターによる空気の汚れが問題になっている。Gogoro なら当然、排出ガスも出ないため、普及が進めば大気汚染の改善も期待できる。

11、クールであること、シンプルであること、カラフルであること。
「芸術品みたいなもの」である。女性向き。

12、6 秒で充電：55 個のセンサーを備えた自己診断機能によって、修理やメンテナンスが必要になれば、その診断結果をスマートフォンのアプリを通して表示して知らせる。バッテリーは 2 期搭載しており、満充電されていれば約 160 km の走行が可能。最大速度は時速 95 km で、停止状態から時速 50 km まで僅か 4.2 秒^{わず}という加速性能がある。また、常にスマートフォンを経由してクラウドサービスに接続されており、「Smartscooter」の状態が追跡されている。

13、「Smartscooter」のバッテリー交換が必要な状態になると、スマートフォンで近くの「GoStations」を探すことができる。利用者は「GoStations」の空いているスロットに、自分の「Smartscooter」から取り出したバッテリーセルを挿入する。すると 6 秒後にはすでに満充電状態の別のバッテリーセルが取り出せる状態にせり出してくる。この仕組みであれば利用者が充電のための待ち時間を費やす必要がない。

14、販売価格については、現在 1 台約 9 万台湾ドルのところを政府の補助金で 7 万台湾ドルまで値下げ出来るようになっている。（日本円にして 1 台約 24 万円）